

海軍第一一號ノ四

大正七年十月二十日

十月十七日進達

海軍軍令部長男爵島村速雄殿

大正七年九月戰時日誌

九月一日

日曜日

所在自新嘉坡

航海中

正午位置

北緯一四度四分

天候半晴

風力南向

氣圧最高

最低

氣温最高

最低

記事

九月二日

月曜日

所在自新嘉坡

航海中

正午位置

北緯一四度五分

天候半晴

風力南向

氣圧最高

最低

氣温最高

最低

記事

(一)任務関之行動及重要行事

午後十時里分小樽入港

海軍第一一號ノ四

鋪位 高嶋岬燈台北八度西
小樽港燈台南八度西三哩
水深九、五尋 底質泥

海軍少將田中耕太郎及通譯下船

(三) 遭遇事項

午前十時五十分ヨリ約五分間降雨アリ

(三) 報告

第三艦隊司令長官宛無線電報 (午前
三時五分発)

九月二日午後十時小樽港著

九月三日火曜日 所在小樽

天候 午前晴 向南北南西 氣圧最高 三〇。〇 氣温最高 七五
午後曇 風力一、二、六 氣圧最低 二九。五 氣温最低 六九

記 事

(一) 任務完了の行動及重要な行事

晝間半船交差約三時間宛陸上見學をシム水先人及翻譯邦人八名下船

午後三時五分揚錨舞鶴に向フ

(二)報告其他

海軍大臣軍令部長、横須賀鎮守府司令官宛有線電報
著

全 右

舞鶴三向ヶ丸

舞鶴海軍港務部長宛有線電報

六日午前入港ノ豫定

舞鶴鎮守府參謀長宛 無線電報

(午後二時入港)

命依リ便乗セシ船ニヨリ避難邦人十八名入港後貴

地上陸セシム

九月四日 水曜日 所在白小樽舞鶴 航海中(正午位置 北緯三十四度二分)

天候半晴 風向西南 力六 气压最高九九.九 最低九九.六 气温最高七七.七 最低七一.一

記事

(一) 報告其他

第三艦隊司令長官宛 無線電報 (午前七時五分發)

九月三日午後三時 舞鶴三向々發

舞鶴港務部長宛 無線電報 (午前七時五分發)

前電誤り六日午前貴地着 十日午後出港 豫定入港後清水

八〇〇噸搭載又

舞鶴需品庫宛 無線電報 (午前七時四分發)

補給用第三種煉炭六九五噸 本船用第三種炭三〇噸 六日午後ヨリ

十日午前中ニ人夫積ニテ搭載頼ム

指揮官宛 舞鶴需品庫主任官宛 無線電報 (午後八時四十分發)

六日入港後直ニ炭搭載ニ得ル様準備ニ置カ度

舞鶴港務部長宛 無線電報 (午後二時五分發)

明後六日早朝入港 豫定陸揚品兵器庫行 筒衣糧料行被服士

梱、便乘者准士官一名下卒入院患者五名他籍難邦人由力六名
女十三名計二百名

九月五日 木曜日 所在 自小樽 航海中 (北緯三十七度四分)
天氣晴 風力 向西南、南東南 二、五 氣壓最高 九九九 最低 九九〇 氣溫最高 八三 最低 七六

記事

(一)任務之行動及重要行事

合戰準備部署及戰訓教練施行

本日より茅三種軍裝着用

(二)通報其他

指揮官宛舞鶴港務部長宛無慮

(午前五分)

六番浮標ニ繫留

九月六日 金曜日 所在 自小樽

天氣晴 風力 向西南、東 一、一 氣壓最高 九九〇 最低 九九〇 氣溫最高 八七 最低 七七

記事

(一) 任務之行動及重要行事

午前二時栗田港に碇泊し五時三十分揚子江揚子江内に向つて六時三十分
六番浮標に繫留修理ノ為に發艦復々即ち
便乗者全部(軍用通信吏ニ名ヲ除ク)下船

(二) 報告

(1) 軍務機密第五八四号
大正七年九月四日

海軍省軍務局長 井出謙治
高崎指揮官高橋節雄殿

高崎行動隊案件

右ニ列シ別紙通第三艦隊參謀長ニ電報致置候條御了知上豫
定行動決定次第電報アリメシテ行ノ彈幕ハ九月十日輸送
準備完成見込府當局ノ希望下ニハ十日頃ニ佐世保ヲ出港ノ事ニ
致度

3

右照會旁通知ス

別紙

別紙 一葉添

終

大正七年九月四日發電

第三艦隊參謀長啟

海軍省軍務局長

英艦「サオリ」引渡スルニ程砲彈六千發佐在保ヨリ至急輸送ヲ
要ス高崎ヲ舞鶴ヨリ成公ニ速ニ佐在保ニ回航浦塩輸送取計ハシメ
依命

終

(口) 第三艦隊司令長官宛 無電 (午前 二時四十分發)

九月六日午前七時舞鶴著 十日午後カストリス灣ニ向出
港ノ豫定

海軍大臣、軍令部長、横須賀鎮守府司令長官宛有電

著 十日午後カストリス灣ニ向ケ發ノ豫定

第三艦隊參謀長宛 無電 (午後 四時發)

海軍省軍務局長通牒ニ依リ本船行動尤ノ豫定ス

十日午後舞鶴發十五日佐在保發

十八日浦壩斯德著用濟次菊加斯里斯灣之向ヶ出港

軍務部長軍務局長宛有電舞鶴台港務部長宛報又

本船行動左記通豫定又

十日午後舞鶴發十五日佐在保發十八日浦壩斯德著

用濟次菊加斯里斯灣之向ヶ出港

佐在保鎮守府參謀長佐在保海軍港務部長宛有電

八粒砲彈架搭載為十日午後舞鶴發十五日佐在保著十五日

浦壩斯德之向ヶ出港豫定

九月七日土曜日 所在舞鶴

天候晴風向南東氣圧最高九九七氣温最高七九
最低八七氣温最低七三

記 事

(一)任務圖元行動及重要行事

4

午前八時五分カリ載炭開始午後六時天中止海軍艦隊其他ヲ搭載ス
卒一名便乘

(二)命令其他

第三艦隊司令長官發指揮官宛無電

(望樓ヲ信号ヲ
午前四時四五分度)

其ノ船ハ舞鶴軍港ニ於テ軍需品ヲ搭載次第佐在保ニ面航ス

ガフオリ行ハ糧砲彈茶六千発ヲ受取リ在浦塩斯德ガフオリニ

ニ引渡後加斯重斯ニ面航ス

指揮官宛軍務局長宛有電

(午後三時三十分度)

佐在保ヨリ浦塩斯德ヲ輸送スルキ彈丸運搬ハ一日モ回キ要ス

行動ヲ出来得ス少切詰ノ電報セ度

九月八日 日曜日

所在 舞鶴

天候雨曇風 向北東 南東 氣圧最低 二九・九 氣温最高 二七・八
カ三上 一 二九・八 七二

記 事

(一) 任務之重要行事

前日引續千載炭(自午前七時五分至午後九時四十分)及軍需品其他搭載

(二) 遭遇事項

午前九時三十分より午後二時三十分迄降雨

(三) 報告其他

第三艦隊司令官宛無電(午後六時五分發)

軍務局長及横須賀佐佐保鎮守府參謀長、佐佐保港務部長宛有電

十四日佐佐保發變更以後行動ヲ一日宛線上一

第五戰隊司令官宛無電(午後九時四分發)

本船十日舞鶴發十五日佐佐保着十四日同港發十七日浦塩斯

德著英艦「サフォー」ニ彈着引渡後加斯土里斯灣ニ向ケ出

港ノ豫定

九月九日 月曜日 所在舞鶴

5

天候 午前曇 午後晴 風向 南東 黄葉 氣圧 最高 九九.九 最低 九九.四 氣温 最高 七.六 最低 六.九

記 事

(一) 任務之重要行事
前日引續手載炭(自午前八時至午前八時)卒一名便乘

高崎軍色長海軍大軍阿部使乘船

(二) 遭過事項

午前四時頃約二時間降雨

(三) 通報

軍務局長發指揮官宛有電(午後四時十分度)

高崎三弟二軍用郵便所ヲ設置セラルル旨

九月十日 火曜日 所在 舞鶴

天候 午前曇 午後晴 風向 西東 氣圧 最高 九九.八 最低 九九.七 氣温 最高 七.九 最低 六.九

記 事

(一)任務三箇之重要行事

前日引續午前八時載炭ヲ始午後四時十分終了活牛生糧品共
他搭載

海軍大軍醫菅川千秋退船屠夫活牛運搬ノ爲便乘

全載炭量 第一種煉炭 一六九五噸

第二種和炭 五〇〇噸

軍需用品 (内生糧品三千五百貫 活牛八頭生肉三百貫) 約二二五噸

私有批送品 (酒保物品及吉備用糧食等) 約二六噸

九月十日 水曜日 所在自舞鶴至佐保

天候半晴 風向不定北西 氣圧最高二九八五 氣温最高七七
二九七八 氣温最高六八

記事

(一)任務三箇之重要行事

午後〇時三分解纜佐保ニ向テ出港ス

便乗者

海軍大尉

大虎彦 隆

令

加藤 泰平

海軍少将

押田 淳

令

中尾 五郎

令

稻葉 英子次

(三)報告其他

海軍大臣 厦門部長 横須賀佐佐木鎮守府司令官 佐佐木港務部長 北有電

佐佐木保三向々發

第三艦隊司令官 第五隊司令官 宛無電

(午後八時三十分 午後五時三十分)

九月十一日午前七時 佐佐木保三向々發

九月十二日

水曜日

所在 自舞鶴

航海中

(正午位置 北緯一三四度五六分 東經一三一度三二分)

天候 雨曇

風 向北東

風力 二六

氣圧 最高 二九・八五 最低 二九・七四

氣温 最高 七・七 最低 七・五

記事

(一) 遭過事項

午前八時五分より降雨午後七時頃止ム

暴風敬告報

(イ) 午前八時右佐在保無線電信所より受

十時午後六時低気圧アリ沖繩島南西九十度ニリ七百三十

ヲ示シ北ニ進ム 但シ北東ニ変リテス 颱風進路附近 風雨慮アリ

(ロ) 午後二時五分吳無線電信所より受

十二日午前六時低気圧ハ那覇附近ニ在リ七百三十ヲ示シ北ニ進ム但

北東ニ轉更ニ上リテ高気圧不明 高気圧ハ北支那ニ在リ七百

ヲ示シテ高気圧不明 吳地方北東ノ風雨

(ハ) 午後六時五分佐在保無線電信所より受

十三日正午低気圧沖繩島北方六十度ノ海上ニ在リ七百三十ヲ示シ

北ニ進ム 但シ北東ニ變リテス 颱風進路附近 風雨ノ慮アリ 一區

17

ノ敬言戒ヲ解シ

(二)午後七時五七分横須賀無線電信所ヨリ受

十日午後六時低気圧六沖繩島北五十哩海上ニ在リテ七百千耗ヲ示シ北

東ニ進ム暴風区域三百吉以内風雨強クハニ十日午後七時第五色ヲ

警告戒ス

九月十三日

金曜日

所在 自舞鶴 至佐佐保

天候 曇、雨

風 向東北 力六至五七

気圧 最高二九・七四 最低二九・五六

気温 最高七・九 最低七・四

託事

(一)任務ニ関スル行動及重要行事

午前八時三分佐佐保入港ニ番浮標ニ繫留軍需品私有托送品約十噸陸揚午

後英艦「サフォー」之行彈薬一五〇〇發淡水三五〇噸補給第五戰隊行銃

彈薬其他軍需品等約二四噸搭載午後八時三分錨鎖ラ延ニ芒川天準

備ヲナス 卒一名佐佐保海軍病院ニ入院

本船内ニ第ニ軍用郵便所ヲ設置セシ便乗所長山本勝所員馬場

吉文便乗中處乗船事務ヲ開始ス

(二) 遭遇事
午前三時 幸谷嶺ヨリ約三時間降雨午後四時ニ力頃ヨリ雨ヒ降雨午後八時頃

ヨリ天候漸次險惡トス

暴風敬告報

(一) 午前十一時五十分見張所ヨリ信辨

本日午前六時颶風進路附近風雨ノ虞アリ第一低氣圧ハ發達シ氣

モニシテ奄美大島附近ニ在リテ七百三十兆ヲ示シ北東ニ進ム第二低氣

圧ハ大島ノ東方ニ在リテ七百五十兆ヲ示シ東北東ニ進ム高氣圧ハ

ホユツシ海ニ在リテ七百六十兆ヲ示シ漸次上昇スニ三四区警長中

(三) 報告其ノ他

一海軍大臣軍令部長横須賀鎮守府司令官宛有電

若

第三艦隊司令長官、第五戰隊司令官宛無電 (午前 土時五分受)

九月十三日午前八時佐在保著

三舞鶴鎮守府副官ヨリ指揮官宛有電 (午前 土時五分受)

海軍大臣ヨリ電報取次リ

高崎ニテ海軍軍用郵便所ヲ設置シ明十三日ヨリ其ノ事務ヲ開

始ス

軍用郵便監督官ヨリ指揮官宛有電 (午前 土時三分受)

貴船内ニテ郵便所ヲ設置シ十五日ヨリ事務ヲ開始セシメ所長本勝

(五級) 所員馬場吉文(六級) 萬事可然配慮アリクニ

三佐在保鎮守府副官ヨリ通報

(一) 海軍大臣ヨリ佐在保鎮守府司令長官宛電文 (九月十五日午後 六時十分受) 寫

官房機密第三八號訓令

英國政府貸與兵器中英砲用踴電氣火管ヲ取消シ同一

踴傳火藥筒及一踴擊手發火管數量ヲ何レモ六千發改

ム但シ最近高崎便ヲ以テ差當リ彈藥火工品共千五百發分

ヲ輸送シ殘餘ハ其儘保管ニ後命ヲ待ツ儀ト心得ヘシ

(四)海軍大臣ヨリ佐在保鎮守府司令長官宛電文(九月廿四日)寫

茅五戰隊司令部ハ三八式小銃用彈藥包五万四百個定數外

トシテ廿日發高崎便ヲ輸送供給セムヘシ

四第三艦隊參謀長ヨリ指揮官宛有電(東京經由 午前一時三十分)

貴船當錨地到着當日又ハ翌日恒例檢閲ヲ施行セム

ル豫定

九月十四日土曜日 所在 佐在保

天候 雨 風 北東、北西 氣圧 最高 九九六八 氣温 最高 七三

記 事

(一)任務之関スル行動及重要行事

午前八時出港スルキ豫定ノ處天候不良ノ爲見合ス

下^{任有}午^進級試験施行

便乗者

海軍少佐

後藤

章

海軍大尉

弓削未藏

海軍中尉

猪瀬正盛

海軍少尉

能美 實

(二)遭遇事項

午前風雨強ク陸上ノ交通殆ト絶エ正午頃より風雨変更ニ晴雨計

漸次上昇午後八時風雨向北西トナリ同土時風力頓ニ減シ其力ニ

至リ天候回復ス

暴風敬言報

午後五時五分見張所ヨリ信跡

本日午前六時颶風進路附近風雨ノ慮アリ低氣圧ハ日向灘ニ在リ七百三十粒ヲ示シ北東ニ進ム高氣圧ハオコツクシ海ニ在リテ七百六十粒ヲ示シ氣圧上昇ス一三四區警戒中

(三)通報其他

一軍務局長宛指揮官宛有電

天氣惡シク出港ニ難シ

二佐在保鎮守府及港務部ニ信辨 (午前九時宛)

本船明朝八時半出港ノ事ニ改ム

三指揮官宛茅五戰隊參謀宛無電 (佐在保無線電機所ヨリ午後二時四十分復)

ニコラエフスクニテ越冬スハキヤ、陸軍ヲ為當港ヨリニコラエフスクト

容積千噸運庫品移送方派遣軍司令部ニ於テ希望ナリ

本件能否及全量不可能ノ場合積込得ル量至急返慮アリ度

本件海陸軍有間ニ協議中 米内軍司令部附

10

九月十五日

日曜日

所在自佐至浦塩斯德保航津

(正午位置)

志岐山北緯度五七哩

天候晴

風

向西北、西北西、西

氣圧最低

二九・八

氣温最高

七・六

六・五

記 事

(一) 任務(三) 航行動及重要行事

午前八時五分解纜浦塩斯德向々出港下幸任用進級試驗及釣床交換施行

(二) 遭遇事項

暴風警報

(イ) 午前七時三十分見張所可信跡

昨日正午船風進路附近風雨ノ虞アリ低氣圧室左埼附近七百

三四兆北東ニ進ム、昨日午後六時船風進路附近風雨ノ虞アリ低氣

圧淡路島附近五三〇兆北東

(ロ) 午後二時四十分佐在保無線電信所可受

十五日午前六時低氣圧佐渡島西方七三〇兆埃東ニ進ム進路附近風雨ノ慮アリ甲高氣圧支那北部七六二兆氣圧并ルニ高氣圧オソク海七五三兆氣圧降ル一二四区警戒ヲ解ク

(八)午後十時五分横須賀無線電信所ヨリ受

十五日午後六時低氣圧宗谷海峡西五〇哩海上七三〇兆埃

ニ准ム

(三)報告其他

一海軍大臣、軍令部長、横須賀鎮守府司令官宛有電

浦塩斯德港ニ向ケ發

第三艦隊司令官、第五戰隊司令官宛無電 (佐世保鎮守府 副官ニ依ル)

九月五日午前八時五分浦塩斯德港ニ向ケ佐世保發

ニ米内參謀宛指揮官宛無電 (佐鎮副官ニ依ル)

千噸以内搭載可能ナリ但ニカストリ到着後最初ニ陸

揚子江艦隊側ノ補給ニ難シ稍都合悪シ搭載品大略ノ種別返
電アリ度

三指揮官宛第五戰隊司令官宛無電 (午後六時受)

英國軍艦行彈其來ハエリニテ第十番岸壁ニ横附直ニ貨車
卸事ニ各方面ニ交渉ノ協議濟シ位置海軍海図ニ百六十八號
クレストホリロニ丘ニ北東約二鏈半ニ在リ約幅百米山岸壁ニシテ水
深海圖ト異リ附近ニ帯平地六尋ニ深シアリ大船ノ横附安年
リ西方ニ海圖ヨリニ層堀リ擴ケルヲ以テ船首方面ニ充分餘地アリ
岸壁側上屋ニハ番跡ヲ標記シアリ河村肥前砲術長戰隊司令
部ノ右ヲ以テ貴官ヨリ受領シ更ニ之ヲ英艦長ノ指定セル責任者
ニ交付ノ順序トス

英艦長ヨリ其署名アル青山佐世保海軍主做兵器庫番宛
受領證書出スヤ右ノ入港即時横附ヲ不便ナリトセルルヲ肥前

側ニ投銷スルモ差支ナシ入港前日中ニ入港時刻ト共ニ電報

サレ度

九月十六日月曜日 所在 自佐在保 航海中 (正午位置 北緯三三度三分)

天候晴風 向北西西南西 氣圧最高二九・九四 氣温最高七・四

記 事

(一) 重要行事

釣床洗濯、本日ヨリ冬季服班衣トス

(二) 通報其他

指揮官宛軍務局長宛無電 (午後一)

ニコライアスク方面陸上部隊用防寒被服三百組浦塩斯德港

テ肥前主計長ヨリ受領ニ輸送方取計ハレ度

九月十七日火曜日 所在 自佐在保 航海中 (正午位置 北緯三三度五分)

天候晴風 向西南西南 氣圧最高二九・九三 氣温最高六・四

1 2

記事

(一)重要行事

三十七八年戰役海軍記念日付記念式施行終了分隊兵檢及人員
調査ヲ行フ

(二)通報其他

第五戰隊參謀宛無電 (午前九時四五分發)

月後十八日午前中ニ入港ノ豫定搭載彈藥類ハ全部箱入ニシテ彈

丸五〇裝束三信管三八火筈筒五火管小銃彈六〇計三三箱約

十五噸其他肥前飛行被服六箱桐酒保物品細八箱計約三百

斤〇一應肥前ノ附近ニ錨泊ス碇泊位置知ラサレ度入港時刻後

報ス

九月十八日 水曜日 所在 自左至右 瀬田新徳

天候 午前 半晴 風 向 南、南東 氣圧 最高 九九・八 氣温 最高 六七
午後 曇 風 力 四、三 氣圧 最低 九九・八 氣温 最低 六四

記事

(一)任務に關する行動及重要行事

午前八時五分浦塩新徳港に於て琛泊碇泊場並茶肉倉爲海軍大尉藤堂功来船直ニ拾一番倉庫前岸壁ニ向ヒ航進午前九時五分同所ニ横付ス午前十時五分英艦「サフォール」行彈菓茶一五ヲ發テ陸揚シ肥前砲術長立會上英官憲ニ引渡ヲ終リ午後一時八分纜索ヲ放テ肥前ノ附近ニ到リ午後一時五十分投錨

錨位 午ヤリ南三度西〇八三哩 水深九尋ノ底質泥

肥前ニ小銃彈菓軍需品其他私物品ヲ渡シ同船ヲ陸軍防營衣二百組移載各船二時間半先陸上見學子ヲナサシム

(二)遭遇事項

在泊艦船 肥前、佛艦「ケルセル」支艦 海峯米艦、ブリスリン 陸軍運送船はくとく丸 大正丸其他四隻

13

(三) 報告其他

海軍大臣、連合部長、横須賀鎮守府司令長官、第艦隊司令官、官宛無電

九月十八日午前九時浦塩斯德著

第五戰隊司令官宛無電 (午前一時三十五分發)

十八日午前九時入港ノ豫定

第五戰隊司令官宛指揮官宛無電 (午前二時發)

義勇艦隊埠頭トシテノ角中間佛國「ケルセ」ノ南方ニ便

宜錨泊差支ナシ

九月十九日木曜日 所在 自浦塩斯德 (正午在置) 至加斯土連斯 (「ケルセ」燈台ノ南三度東三度五哩)

天候曇 風向南東 風力七ノ二 氣圧最低 二九六・三 氣温最高 六・三 最低 二九七・七 六一

記 事

(一) 任務ニ関スル行動及重要行事

午前七時三分揚錨加斯土連斯灣ニ向テ出港 總員休重行量及月別疾病枚

查施行

(二) 遭遇事項

午前九時三十分頃ヨリ午後八時頃迄降雨午後七時五分濃雨務龍衣未全
時予方重行ル

敬言報(午前八時
船橋無線電信所受)

十九日午前六時低氣圧佐渡ノ北七〇哩ノ海上ニ在リテ七四八粒ヲ示シ

北東ニ進ム

(三) 報告其他

海軍大臣、軍令部長、横須賀鎮守府司令官、第三艦隊司令官、佐々木無電

加刺士里斯灣ニ向ケ出港 九月十九日午前七時

九月二十日 金曜日 所在自浦塩斯德
至加刺士里斯 航海中(正午位置
北緯三四度三分
東經三六度三分)

天候 曇 風 向 南東 東 氣圧 最高 九九・七四 最低 九九・六九 氣温 最高 六・六 最低 六・一

記 事

14

1110

(一) 重要行事

防火教練施行

(二) 遭過事項

午前六時三十分頃セントウジール港外に於て西路國駆逐艦一隻(三番四煙突
艦名不詳)

南西方に航行スルに遭フ

午前四時四十分濃霧降来午前四時三十分頃より漸次淡霧初トナリ

燈光ヲ認め同六時頃雨霽ル午後細雨淡霧降交々至り視界狭クナリ

敬言報 (午後七時
宗谷望樓より)

二十日午前六時低気圧北緯四二度東經一四七度附近に在リテ七五〇

耗ヲ示シ東北東に進ム

(三) 通報其他

第三艦隊參謀長苑發無電 (午後六時
四十分)

二十日午後三時過入港ノ際定搭載品第三艦隊行煤炭三五〇

生牛肉七〇。貫生野菜三五。貫其他軍需品等。鹿島九六
 個約六七。香取三七。四個約十。水雷戰隊五三個。阿蘇三五
 個。千早四三個。第五驅逐隊二。個。第二驅逐隊一三四個。第一
 九二個以上。第三水雷戰隊合計三八五個。九六噸。第五驅逐
 隊一五九個。約四五。外。第三水雷戰隊行陸軍防具被服
 四一捆

九月三日 土曜日 所在 自浦島新德 航海中 (正午位置 東緯一三九度六分)
 天候 曇 風 向東北 共西 氣圧 最高 九九。最低 九七。氣温 最高 六二。最低 五七。

(遭遇) 事項

敬言報 (午後八時十分 松橋電信所より受)

二十日午前六時低氣圧宗谷海峡東一〇哩ノ海上ニ在リ七五三號ヲ示シ東北東ニ進ム

15

(三) 通報其他

第五戰隊司令官出紀無電 (午前四時 三十分發)

二十日午前六時半 セントウラシムル港 外 (北緯四十五度四九分 一三六分 東經百三十五度五分)

二艦四煙突ノ和路國駆逐艦一隻ノ南西方ニ航行スルニ會フ艦名不詳

九月二十日 日曜日 所在 自浦羅斯德 航海中 (北緯四十五度九分 東經一四〇度五分)

天候 午前曇 風向北北東 氣圧最低三九・二 氣温最低四・八
午後半晴 風力四・六

記事

(一) 任務關之行動及重要行事

令隊點檢人員調査及船内武器、短艇要具兵檢施行

午後九時十分 加斯里斯灣入港 大光海軍大尉 下船

錨位 シロスターカニ 燈台 南二十度東三十一分 外環七三

在泊艦、香取、鹿島、阿蘇、勞山、榎、黑神丸、吉井崎丸

(二) 命令、通報等

1113
1114

(三) 通報其他

第五戰隊司令官山元無電 (午前四時)

二十日午前六時半セトリウラシ之山港外 (北緯四十五度四九分一三秒
東經百三十五度五五分)

二橋四煙突ノ船路國駆逐艦一隻ノ南西方ニ航行スルニ會ワレ艦名不詳

九月二十日 月曜日 所在 自浦塩斯德 航海中 (北緯四十五度九分
東經一四〇度五分)

天候 午前曇 風向北北東 氣圧最高三〇・二 氣温最高四五・六
午後半晴 風力四一六 氣圧最低二九・九 氣温最低四一・八

記事

(一) 任務之関ニシテ重要行事

全隊點檢ノ後、艦上ノ各種兵器、短艇要具兵檢施行

午後九時十分カスエ運其

錨位 シロスターカニノ燈台 南二十度東三一哩 水深七尋ニ底質泥
オハサハトリノ島 南八度西

在泊艦、香取、鹿島、阿蘇、勞山、榎、黑神丸、吉井崎丸

(二) 命令、通報等

1113

1114

第三艦隊參謀長宛無電

(午前五分)

入港 午後七時頃ト見込

全 右

(午後一時十分)

入港 午後十時頃ト明日檢閲施行セハ本船ニ於テ荷役開

始施行セラル好都合トス

指揮官宛第三艦隊參謀長宛無電

(午後二時五分)

返明日檢閲施行セラル旨

第三艦隊參謀長宛無電

(午後七時五分)

午後九時入港錨場ノ指定ヲ乞フ

旗艦香取ヨリ無電

(午後八時三分)

香取ハ三洲岬ノ北八五度東二三哩ニ在リ香取北五度西四里錨場

旗艦香取ヨリ信辨

(午後九時四十分)

指揮官表艦セヨ

16

九月二十三日 月曜日 所在加斯土里斯灣

天候晴 風力向北西 氣圧最低 氣温最高

記事

(一)任務之行動及重要行事

午前八時十分有馬第三艦隊司令長官恒例檢閲為末艦船

分隊點檢、船内點檢、銃器點檢、艦砲教練、防火教練、

施行並前時十分揚錨全時十分鹿島、右舷側、横付ス

上及上層甲板有馬第三艦隊司令長官退船

弓削海軍大尉、猪瀬海軍中尉下船

(三)命令訓令等

1116
1117

九月二十三日 月曜日 所在加斯士里斯港
天候晴 風向北西 氣圧最高 二 氣温最高 四六一

記 事

(一) 任務ニ関スル行動及重要行事

午前八時十分有馬茅三艦隊司令長官恒例検査園為来艦船

分隊點檢、船内點檢、銃器點檢、艇石教練、防火教練、

施行 午前時十分揚錨全土時十分鹿島、右舷側ニ横付ス

午後十時十分有馬茅三艦隊司令長官退船

午後零時十分鹿島ニ給炭ヲ始シ八時十分終了

給炭量 鹿島 七六〇屯

(二) 遭遇事項

午後三時葺埼丸、黒神丸「ヨラエヌ」ニ向ケ出港

(三) 命令訓令等

1116
1117

第三艦隊機密第九號第三艦隊司令官九月自發陸軍下擲狀一件

第三艦隊司令官第五五號九月自發陸軍下擲狀增勢要充警告符一件

第三艦隊司令官第五六號九月自發陸軍下擲狀區分一件

第三艦隊司令官第九八號九月自發陸軍下擲狀侍從武官差遣符儀制一件

第三艦隊司令官九月自發陸軍下擲狀初霜應急修理要點一件

第三艦隊司令官第一〇〇號九月自發陸軍下擲狀各防備網圖一件

第三艦隊司令官第一〇一號

大正七年九月二十日
於交トリノ港獲艦有取

第三艦隊司令官長官有馬良橋

一運送船高崎恒例檢閲八日合第九一號別紙大正七年恒例檢閲

施行要領ニ准テ末三三日施行ス

二山風八明三日鹿島ヨリ測量班用要具材料糧食等之受取

リ七ツ島(ホルヤニフ島)附近ニ到リ之ヲ測量班ヲ渡シテスルニ成

連ニ歸港スヘシ

17

三石炭搭載日割搭載額等左通定ム

期日	艦名	搭載額	給炭船
九月三日	鹿島	七六〇	高崎
同二日	香取	九五〇	同右
同二日	同	四〇〇	同右
同二日	同	二〇〇	同右
同二日	同	一〇〇	同右

香取ヨリ総艦へ旗信 (午前五時五分受)

鹿島八明三西日勞山ヨリ無線電信所諸材料残部ヲ受取リ置ム

且今夕三時石炭搭載日割ト搭載額中鹿島八五〇ヲ七六〇ニ榎ニシテ

九〇ニ勞山ヲ高崎ニ二西日ヲ二六日改出黒神其岸増ハ今朝

六時半勞山ニ横付勞山ヨリ無線電信所諸材料ヲ受取ヘシ

香取ヨリ本艦へ旗信 (午前五時五分受)

指揮官一時半来艦セヨ

(四) 報告通報等

(1) 海軍大臣、軍令部長横須賀鎮守府司令長官、舞鶴鎮守府

司令長官宛無電

(午後一時至七分
香取ヨリ宛)

加斯土里新渡ヲ着 九月三日 高崎指揮官

(12) 軍事郵便為替ノ件

(九月四日附太田副官ヨリ
指揮官宛通知)

第三艦隊第一九六号

大正七年九月四日

斎藤第三艦隊參謀長

艦長、司令 殿

軍事郵便為替ニ関スル件

爾今軍事郵便為替ニ依リ送金請求向ハ豫メ各艦ニ於テ取

纏メ為替請求書及總金額ヲ記入シ添書ト共ニ現金ヲ添ハ

郵便吏ニ差出スニ上 部下般ニ通達相成度

右申在ス

(11) 第三艦隊公報第八一號第八二號第四号廿八号 受領

18

一 (二) 第三水雷戰隊參謀ヨリ通知

黒神丸、葦葦埼丸行動豫定在ノ通知
 (九月廿四日發令第三水雷戰隊令)
 特第 三 号

黒神丸 葦葦埼丸

下リ 三市発 天夕ト着	上リ 三市着 天夕ト発	下リ 三市発 天夕ト着	上リ 三市着 天夕ト発
九月十九日	九月二十日	九月二十三日	九月二十五日
二十五日	二十七日	二十九日	十月一日
十月二日	十月四日	十月六日	八月
九月	十一日	十三日	十五日

備考 一、一回ノ運出量約百噸トス
 二、南水道ヲ通航スラ創トス

九月三酉日火曜日 所在 加斯土里斯灣

天候晴 風向北西、南東 西
 一、 氣圧最高 三〇・三九
 最低 三〇・三三 氣温最高 六三
 最低 四八

記 事

一 (一) 任務ノ履行行動及重要行事

午前七時鹿島横付ヲ離レ全時四十分香取ノ右舷側横付シ八時五分給
炭ヲ始メ午後四時三十分自雪本船ノ右舷前部横付第三水雷隊行
陣需品ヲ搭載ス午後七時三十分香取載炭ヲ終リ全時四十分自雪
下船 者 後藤海軍少佐

便乗者 避難邦人四名 (別記)

別記

避難者名簿

合	合	合	熊本縣會郡鬼池村	行先地名
合	合	合	ニヲエスシ	住所地名
大五	同伴者	子供	洗濯業	職業
二一	六	一	三一	年齢
池崎ツル	佐藤フタエ	全 春枝	池崎ハイ	氏名

19

1122
1123

新七時鹿島横付ヲ離シ全時四カ力香取ノ右舷側横付ニ八時五分給
炭ヲ始ム午後四時三十分自雪本船ノ右舷前部横付第三雷隊隊行
陣席品ヲ搭載ス午後七時三十分香取載炭ヲ終リ全時四分自雪
横付ヲ離ス午後八時三十分本船香取ノ舷側ヲ離シ午後八時五十分錨
地ニ就シ

給炭量 香取 九五〇噸

(二) 遭遇事項

山風入港

(三) 命令其他

香取ヨリ旗信 (午後七時七分受)

山風ハ明日高崎ノ右舷後部ニ横付シ全船ヨリ席品搭載ス

全 右 (午後五時十分受)

石炭搭載量左ノ通改ム山風自五十噸自雪五十噸

海軍

1122
1123

19

九月二十五日 水曜日

所在加斯土里斯

天候 曇云、雨

風 向西南、東北
力 = 五六

气压 最高 二〇二八

最低 二九五
气温 最高 二六
最低 五三

記事

(一)任務に關する行動及重臣女行事

午前七時白雲本船九船前部ニ横付煙管以移載ヲ開始シ午前八時大船終了

續テ給炭午前八時五分山凡 右船前部ニ横付 並則十時四十分白雲載出炭ヲ

終リ今土時五分横付ヲ離ス午後更時五分榎本船九船後部ニ横付ス在右

下船

午後更時四十分頃ヨリ風力増加シ山風榎ヲ横付シタル儘約八分未走錨真ニ

双錨泊ヲ為ス其後益海上浪濤高ク給炭難困尤ニ至リテテ旗信依リ

給炭中止

榎午後更時五分山風今時五分本船横付ヲ離ルル即刻揚錨、錨地ニ向テ

海上風波強ク錨地ハ概不良ノ爲錨地変更際走錨スルトニ面ニ及ヒ午

後三時三十分第三次ミテ漸ノ良好ノ錨地ヲ求メ及錨泊ヲ爲ス

錨位 オササハトリ島北六〇度西二哩
オリスター島南八八度西

給炭量 白雲 五〇噸

乗便乗者 海軍少佐 若山 昇

全 山本松四

(三) 遭 遇 事 項

午前五時三十分西國汽船一艘 隻入港 全九時三十分出港

午前七時十分勞山佐在保ニ向ケ出港 午後三時三十分阿蘇入港

午後零時三十分頃ヨリ午後六時三十分間時々降雨アリ

(三) 命 令 其 他

香取ヨリ旗信 (午後五時三十分)

天候ノ爲載炭困難ナリ 一時載炭ヲ止メヨ

全 左 (午後一時三十分受)

20

天候爲載炭困難七八時載炭正々便宜ノ錨地ニ就ケ

本船ヨリ旗艦へ (午後 六時三十分迄)

本日山風百二十噸榎九十噸載炭未済明天候恢復後ノ載炭噸序

指合アリタシ

香取ヨリ旗信 (午後 七時四十五分)

明天候恢復セ八九ノ噸序ノ載炭セヨ茅一噸山風、榎、茅三噸、阿蘇

茅三噸海風、橋、炭量阿蘇三〇七海風一五〇七橋九〇七

九月二十六日 水曜日 所在加新土里斯

天候 午前 曇 風 向 北東、北西 氣 圧 最高 二九・九五 氣 温 最高 六・四
午後 半晴 風 力 三 山 三 一 氣 圧 最低 二九・四四 氣 温 最低 五・〇

記 事

(一)任務ノ関スル行動及重要行事

午前五時三十分頃ヨリ波浪修シ海上幸穂トナシテ至前六時五十分單錨

泊ス山風全則時右舷前部ノ横付今八時半會リ給炭榎今八時交尾船

後部、横付今時五分ヨリ載炭ヲ始ム山風ハ午後一時榎ハ今時五分
載炭終了今時三横付ヲ離ル本船午後一時三分揚額、今時四九分阿
蘇ノ右舷側ニ横付ス

午後三時五分阿蘇ニ給炭開始ス午後七時五分兩散右舷前部ニ横付茅
ニ五駆逐隊行軍席ヨリヲ移載シ今時五分ヲ終了横付ヲ離ル午後八時十
分、橋右舷後部、横付茅ニ水雷隊行軍席ヨリヲ移載今時三分
終了横付ヲ離ル

午後十時十分阿蘇、給炭ヲ終リ今四十三分解纜横付ヲ離シ直舞鶴ニ
向ケ出港

給炭量 山風 一 二〇屯

榎 九〇屯

阿蘇 二九〇屯

下船者 加藤大尉、押田少軍醫、中尾上等兵、菅原葉吉、森田

21

便乗者 海軍少尉 有馬修一

海軍中尉 醫 堤 皐一

海軍上等兵 齊藤半四郎

卒 田名

(二) 遭遇事項

午前七時一分白雲出港 午後五時第一五駆逐隊令五時五分海風橋

令四十分葦崎丸入港

(三) 命令其他

艦隊、旗信 (午前八時五分受)

丙陸戰隊、海風橋、甲陸戰隊、第五駆逐隊 (白雲出港) 手本帰

艦、笠

香取、本船、信跡 (午前九時四十分受)

参謀、葦崎 六時半 (二) 市参報、荷物、葦崎、移、ト、シ

本月中之總之載是荷役終り並得半尚貴艦ノ行動豫定承知
ニタシ司令部ノ希望十月十日當地着引續キ測量班無線電信所建
設員收容内地ノ発ノコトニシテ獲

本船より香取ノ信跡 (午前十時五分発)

參謀ノ本目正子正ニ出港ニキ希望ニ付載是荷役及時刻迄ニ是非
終リシ得ル様可然指令リ度左スレハ御希望通十月十日當地到着
ニ得ル見也

艦隊ノ旗信 (午前十時五分發)

高崎ハ今夜正子出港末月十日當地着ノ豫定

本船より香取ノ信跡 (午後十時五分發)

參謀ノ海風ノ楠ノ載是豫定時間内ニ終リ得ル事知シ格載量ノ部ヲ
所餘移シ置キ又他艦より兩駆逐艦ノ人手ヲ補助スル必要アリト思ハル
爲念

22

香取ヨリ本船へ信辨

(午後三時
四十五分受)

参謀ヨリ食後香取、鹿島ヨリ兵員五十名補助員トシテ派遣ニ答

今 右

(午後四
時三十分受)

参謀ヨリ葦埼入港セバ直貴船横付申及葦五郎隊行ニ荷物ヲ搭載セシム

念「葦五郎隊入港セバ貴船横付令隊ノ荷物ヲ受取ラシム

今 右

(午後四時
五十分受)

海風、橋ノ載炭ヲ去午後一時迄出来得炭ヲ補給

今 右

(午後五時
五十分受)

参謀ヨリ葦埼丸へ、需品搭載取止シテ清水出来得炭ヲ量所敷及

横付シテ先駆逐艦ニ供給セシメラシム

今 右

(午後六
時五分受)

葦埼丸ニ積ム荷物ハ全部第三駆逐艦一艦ニ改充

艦隊へ旗信

(午後
九時四十分受)

明二十七日龍記ニ依リ載出スヘシ、

香取ハ松風ニ九。毛雨散。一。毛野分ニ一。毛鹿島ハ海風ニ

一一。毛橋ニ六。毛阿敷ニ葺埵ニ八。毛黒神ニ八。毛

九月二十七日 金曜日 所在自舞鶴航海中 (正午位置 北緯四十四度二五分 東經一四十四度四分)

天候晴 風向南西 氣圧最高三〇・四 氣温最高六・三

記 事

(一) 報告

海軍医軍令部長 横須賀鎮守府司令官 舞鶴鎮守府司令官

舞鶴海軍港務部長 丸無彦 (午後一時 三十分発)

九月二十六日午後十一時舞鶴ニ向ケ発

九月二十七日 土曜日 所在自舞鶴航海中 (正午位置 北緯三十九度三十分)

天候曇 風向南西 氣圧最高三〇・二 氣温最高六・七

記 事

2B

(一) 遭遇事項

午後十時頃約十分間濃霧に遇つ

九月二十九日 日曜日 所在 自加刺董斯 航海中 (正午位置 北緯三十七度五分 東經七十七度五分)

天候 雨霧 風 向 變 南 西 風力 二 三 八

記 事

(一) 重要行事

全隊長全隊講話施行

(二) 普通事項

午前零時天力濃霧未散午後七時三十分雨霧西降

今十時三十分降雨今十時三十分より風力頗る増加し八一六に至る

九月三十日 月曜日 所在 自加刺董斯 航海中 (正午位置 北緯三十七度五分 東經七十七度四分)

天候 午前曇 風 向 南 西 北 風力 三 七 五 氣 圧 最 高 二 九 九 四 氣 温 最 高 六 八 二

記 事

(一) 曹馬事項

午前時三十分頃より風漸減之三十分前四時三十分頃風向急変之北西ト
大々其力一上九午前七時三十分頃用ヒ南風風速之漸次其強度増之
午後七時以後五一七運吹ス

(二) 通報其他

舞鶴鎮守府矢野謀長宛無電

(午後三時 三十分発)

前田様ニヨリ邦人女子三名計四名避難為便乗アリ

舞鶴港務部長宛無電

(午後三時 三十分発)

明日午前八時頃入港ノ豫定 錨場指定及繋留用傳馬船ノ准

備ヲ又港後清水丸ニ配給アリ度揚荷品庫行由個約モ

便乗者准唐以上五名在內名避難邦人四名計十三名

舞鶴品庫長宛無電

(午後三時 四十五分発)

補給用煉炭二十六噸本船用紅炭六百噸搭載ス明日入港後直ニ取

23

掛意差支 廿六日早朝出港 豫定

舞鶴港務部長 発指揮官宛 無電

(午後四時
三十五分受)

三番浮標ニ繫留

舞鶴港務部長 宛 無電

(午後五時
五分受)

陸上各部ト交渉ヲ要スル事項

ヨリ三番浮標ニ天廻ル不便

ニ付出来得ル方ニ浮標ニ変更セシメ度

指揮官宛 舞鶴港務部長 発 無電

(午後六時
五分受)

谷内方 浮標ニ

(終)

軍送船高崎九月分無線電信目誌

月日	前時分	右時分	左時分	船名	種別	内容
九二	前	三〇	三〇	本船	香取	宛第ニ艦隊司令長官 発信人高崎指揮官
九二	右	三〇	三〇	鹿島	本船	九月二日午後十一時小樽港著 宛高崎指揮官 発信人香取艦長
九二	右	三〇	三〇	本船	舞鶴	舞鶴需品庫 防船の大四個代貸等方請求アリ 次回便ニ輸送方御願ス
九二	右	三〇	三〇	本船	舞鶴	宛舞鶴鎮守府参謀長 発信人高崎指揮官 命依リ便乗セシメルニシテスリヨリ舞鶴邦人 丈名入港後貴地上陸セシム
九四	前	七〇	七〇	本船	香取	宛第ニ艦隊司令長官 発信人高崎指揮官 九月三日午後三時舞鶴ニ向テ発

信 文

九、四	七、五	前	本船	大凌	此舞鶴港務部長 發信人高崎指揮官 前電設リ六日午前貴地著七日午後出港豫定 入港後清水八〇七搭載ス
九、四	七、四	本船	大凌	此舞鶴西品庫 發信人高崎指揮官 補給用茅種燻炭一六九五噸本船用茅種炭 〇七六日午後三時前中七人夫積ラ搭載賴ム	
九、四	二、五	本船	舞鶴	此舞鶴港務部長 發信人高崎指揮官 明後六日早朝入港ノ豫定 陸揚品兵果庫行一個衣糧科行被服三捆便乘 者准士官在下存入院患者五名他三難邦 人男六名女士名計三兩名	
九、五	一、五	前	舞鶴	本船	此高崎指揮官 發信人舞鶴港務部長 港外ニ役泊午前六時入港

九六	前 百四	舞鶴	船橋	香取	宛茅三艦隊司令長官 発信人高崎指揮官 九月六日午前七時舞鶴着十四日午後カスリ湾ニ 向ク出港ノ豫定
九六	右 九四	舞鶴		香取	宛茅三艦隊参謀長 发信人高崎指揮官 海軍省軍政局長通牒依リ本船行動ノ 通豫定ス
九八	右 六五	舞鶴		香取	十一日午後舞鶴発 十三日 佐毛保着 十五日 佐毛保発 十八日 浦塩斯徳着 用済次茅加斯土里斯湾ニ向ケ出港
九八	右 九四	舞鶴		肥前	宛茅三艦隊司令長官 发信人高崎指揮官 十四日佐毛保発ニ変更以後行動ヲ日先線ス 宛茅五艦隊司令官 发信人高崎指揮官 本船十日舞鶴發十三日佐毛保着十四日同港發十七

九三 一四	右 本船	佐在保	入港後直ニ備船ニ復来ル様御配慮ヲ願フ
九三 一四	右 本船	佐在保	宛佐在保馬品庫 發信人高崎指揮官
九三 一四	右 佐在保	本船	菅野隊用菅野号汽発油火立二三罐本船搭載スル 様子配済ニナリ
九三 一四	右 佐在保	本船	宛高崎指揮官 發信人佐在保港務部長
九三 一四	右 佐在保	本船	敷野留浮標ノ指定 二番
九三 一四	右 佐在保	本船	宛高崎指揮官 發信人海軍省副官
九三 一四	右 佐在保	本船	高崎菅野号十八号上甲防食材料供給ノ件佐在保ニ リ供給ノユトニ訓令セズナリ
九三 一四	右 佐在保	本船	午前六時ヲ午前七時手合ニ改ム
九三 一四	右 佐在保	肥前	宛菅野五戰隊司令官 發信人高崎指揮官
九月十三日午前八時佐在保著			

九五 一 五	佐在保	船橋	宛 第三艦隊司令部 發信人 高崎指揮官
九四 一 五	肥前	佐在保	九月十二日午後八時 佐在保着 宛 高崎指揮官 發信人 第五戰隊參謀 ニヨラエテ、ニシテ、冬々、キ、管陸軍爲當港ヨリ、三割 ノ、引込、空積、千噸、軍需品、批送、方、派遣、軍司令部、 於テ、希望、ナリ
九五	佐在保	肥前	宛 米内海軍司令部 發信人 高崎指揮官
<p>千噸、空積、可能、但、カ、トリ、又、到、着、後、最初、 之、陸、場、是、八、艦、隊、側、補、給、稍、都、合、慮、之、搭、載、品、 大、略、種、別、返、電、リ、度</p>			

3

九十五 佐在保	肥前 宛第五戰隊司令官	發信人高崎指揮官
九十五 佐在保 船橋	香取 宛第三艦隊參謀長	發信人佐在保鎮守府參謀長
九十五 肥前 佐在保 高崎	高崎 宛高崎指揮官	發信人第五戰隊司令官
	英國軍艦行經某、エケリト、第十番岸壁横付	直ニ何軍即事ニ各方面ニ交渉協議濟
	位置海軍海圖第六八號	北東約二鏈半ニ在リ約幅百米岸壁ニシテ水深海圖下
	八英ナリ附近一帶平均六尋ニ淺深シテ大船横附安全ナ	リ西方ハ海圖ヨリ岸壁擴充ラテテ船首方面ニ充分餘地アリ
	岸壁側上屋ニ番旗ヲ標記シアリ	河村肥前砲術長戰隊司令部名ヲ以テ貫官ヨリ受領シ

		九天前 九本船 佐保 横須賀	
度 斯德港ニテ肥前主計長ヨリ受領シ輸送方取計ハ	ニヨラシク方面陸上部隊用防寒被服三百組浦塩	本船 北高崎指揮官 發信人 軍務局長 年終給券一〇号ニ依リ支給シ然ルハモ	更ニ之ヲ英艦長ニ指定セシ責任者ニ交付ノ順序トシ 英艦長ヨリ其ノ署名アリ青山佐保海軍工廠兵器庫 管見受領證書出スルモ 入港即時横付ヲ不便ナリトセルトシ久肥前側ニ投錨スルモ 差支ナシ 入港前日申入港時刻表ニ電報アリクニ 發信人 高崎主計長

4

九七 五 本船	肥前 宛第五戰隊參謀 發信人 高崎指揮官
九八 一 吉 肥前	本船 宛高崎指揮官 發信人 第五戰隊司令官
一三五 本船	肥前 宛海軍大臣軍令部長 横須賀鎮守府司令官 第三艦隊司令官 發信人 高崎指揮官
	義勇艦隊埠頭トシニ列角中間佛艦トモ止南 方ニ便宜錨泊差支ナシ
	刻ハ後報ス 箱約十五噸其他肥前行被服六捆酒保物品八箱計約 三百餘ト一應肥前附船ニ錨泊ス碇泊位置知モ度時 八〇銃彈六〇計ニ〇三 入ニテ彈丸五〇枚茶葉三三信管三八火柴筒一五火管 明後丈日午前申入港ノ豫定搭載彈藥類ハ全部箱
	九月十八日午前九時浦塩斯總著

九八 四〇 肥前	九九 八〇 沼山	九九 二〇 肥前	九〇 三〇 高崎
船橋 宛海軍大臣、軍令部長、横須賀鎮守府司令長官 第三艦隊司令長官 発信人 第五戰隊司令官 高崎午前七時五分着 九月午前七時カストリスニ向ケ 発隊定	本船 宛高崎主計長 発信人 林大主計 硝子手 札型写真種板 (冊成向シ、イルホー作ト毒印) 土打及擲銃用散弾、B型五行寄港地ニ於テ買 入頼ム	船橋 宛海軍大臣、軍令部長、横須賀鎮守府司令長官、第三艦隊司令 長官 発信人 高崎指揮官 加斯雷斯灣ニ向ケ出港 九月九日午前七時	香取 宛第三艦隊副官 発信人 高崎指揮官 ア六〇七(後藤)カ三(大穴達)カ四六三(弓削)

<p>九三前 高崎鹿島 肥前</p>	<p>九三后 高崎 香取</p>	<p>力六五二(加々勝) 廿二八(猪狩) 廿五三七(能美) 十二六三(押田) 木六七三(稻葉) 木六八〇(中尾) 神風、楠、存各一名計十一名便乘 第三艦隊參謀長 發信人高崎指揮官 三月午后三時過入港、豫定 搭載品第三艦隊行煤炭二五〇噸生牛肉七〇〇貫生野菜 三五〇貫其他軍需品等八鹿島九六個約六七 香取三七個約土噸茅三水雷戰隊五三個阿蘇三八五個 牛車四三個茅五驅逐隊二〇個茅三驅逐隊一三四個高崎 丸二個以上茅水雷戰隊合計三八五個九六七茅五驅逐 隊一五九個約四一五噸外之茅水雷戰隊行陸軍防輿被 服四一捆</p>
<p>宛茅五戰隊司令官</p>	<p>發信人高崎指揮官</p>	

九三 右 高崎	九三 前 鹿島	<p>千自午時六時半セトリウシニシテ港外北緯四十五度四九分 東經百三十五度三五分ニ於テ二橋四煙突ノ西路國駆逐艦 一隻ノ南西方ニ航行スルニ會フ艦名不詳</p> <p>香取 片死第三艦隊主計長 發信人高崎主計長</p> <p>艦船經費繰替金トシテ早令五六九四四ニテ第五駆 逐隊ノ令九三〇内第五駆逐隊ノ令三〇〇〇内持第ヨリ各 主計長ノ請求書及領收書送ルニ様御取計ヒシモノ</p>	<p>高崎 宛高崎指揮官 發信人第三艦隊司令部</p> <p>字在番号八七宛 第三艦隊主計長</p> <p>達第六四号臨時手當本月令九ノ通改正科目ノ新添 者ニ就テハ奏任官其他臨時手當ノ目追加一少佐大尉 特務士官二割五分、二中少尉候補生程士官下士存</p>	<p>備人四割</p>
---------------	---------------	--	---	-------------

6

九三 右 香取	八三 右 香取	九三 右 高崎	八三 右 香取	九三 右 高崎	八三 右 香取	九三 右 高崎
岩谷	高崎	香取	高崎	香取	高崎	香取
加斯土里斯灣着 九月三日	米ニ投錨也	午前九時入港錨場指定也	返明日檢閲施行也	天荷役開始前施行サルヲ好都合トス	入港午後七時頃ト見込	入港午後十時頃ト見込 明日檢閲施行也
宛海軍大臣軍令部長横領長官 宛信人 高崎指揮官	宛信人 高崎指揮官	宛信人 高崎指揮官	宛信人 高崎指揮官	宛信人 高崎指揮官	宛信人 高崎指揮官	宛信人 高崎指揮官

九夫 右 蓋 香取	九夫 右 蓋 香取	九夫 右 蓋 香取	九夫 右 蓋 香取
東谷	東谷	東谷	東谷
宛軍政局長、舞鎮參謀長、 發信人第陸隊參謀長 高崎行動豫定九人如 二十七日午前時、斯土里斯港、 發十日加斯土里斯港ノ着 宛舞鶴軍需庫、経理部、 糧科、 發信人第陸隊司令部	高崎十月廿九日、 港十月六日早朝出港、 豫定、 復補給用 三三三噸本船用六百噸糧食、 生野菜五千貫、 活牛八頭、 牛 肉四百貫、 搭載準備了度ニ	宛海軍省副官 發信人第陸隊副官 軍事機密費二千円、 洋酒、 シヤンヤ、 二打、 セリ山	宛海軍大臣、 軍令部長、 横鎮長官、 舞鎮長官、 三送付方、 御配慮、 事、 得夕シ

九走 右 舞鶴	九走 前 三 高崎	九走 右 三 高崎	九走 右 高崎
高崎	宗谷	舞鶴	舞鶴
舞鶴港務部長 發信人高崎指揮官 九月二十六日午後七時舞鶴向發 貴船入港時刻知ラセシ 發信人舞鶴廣田庫長	先横須賀經理部長 發信人高崎主計長 臨時軍費上長官官俸給付五〇〇円委任官其他 臨時手当ノ流用方針承認シテ 發信人高崎指揮官	先舞鶴鎮守府參謀長 發信人高崎指揮官 前田同様ニヨリヨリ邦人女子供ニ在計回在辭 難ノ爲便乘ニアリ	先舞鶴港務部長 發信人高崎指揮官 明日午前八時頃入港ノ豫定鋪場ノ指定及敷索留用傳馬 船準備シテ入港後清水九〇屯配給アリ度揚指馬

	九言 三言 高崎	九言 三言 高崎							
	舞鶴	舞鶴							
	陸各部ト交渉ヲ要スル事項ヨリ三番浮標ニシテ八噸ル 不便ニ付出来得共方内方浮標ニ変更セリ	舞鶴 宛舞鶴港務部長 陸各部ト交渉ヲ要スル事項ヨリ三番浮標ニシテ八噸ル 不便ニ付出来得共方内方浮標ニ変更セリ	高崎 宛高崎指揮官 三番浮標ニ繋留	舞鶴 宛舞鶴海軍病院 明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺 球挫創一筋炎一送院又	舞鶴 宛舞鶴海軍病院 明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺 球挫創一筋炎一送院又	舞鶴 宛舞鶴海軍病院 明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺 球挫創一筋炎一送院又	舞鶴 宛舞鶴海軍病院 明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺 球挫創一筋炎一送院又	舞鶴 宛舞鶴海軍病院 明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺 球挫創一筋炎一送院又	舞鶴 宛舞鶴海軍病院 明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺 球挫創一筋炎一送院又

品庫行由個約一噸
上五在卒四名避難邦人四名計十三名
舞鶴 宛舞鶴海軍病院
明日朝食后便乗込者結核ニ(自注)気管支炎一腺
球挫創一筋炎一送院又

	九	右	
	六	百	
	舞	鶴	
	高	崎	
	山	崎	
	内	方	
	淳	標	
	十		
	二		
	發	信	
	人		
	舞	鶴	
	港		
	務		
	新		
	長		

海軍

終

1151

運送船高崎九月分信跡日誌

月	日	時分	起信所	受信所	信	文
九	七	前 由五	望樓	本船	第三艦隊司令官ヨリ指揮官へ	本文其ノ船ハ舞鶴軍港ニ於テ軍艦留置ヲ搭載ス第伍佐 保三田航ニシテ行程砲彈某六枚受取在 浦墾斯徳可チ引渡後新童斯灣ニ面航ス ハニ
	一〇	前 九上〇	本船	望樓	鎮守府港務部其他諸部隊へ漏レテ傳へ、本船明土日 午前時佐保ニ向ケ出港豫定便乗者ハ午前時迄ニ乗 船セシメタル也	
	一一	后 〇一三	本船	船名	吾レ佐保ニ向ケ出港ス	
	一三	前 八上五	港務部	本船	鎮守府團長ヨリ指揮官、貴船ニ艦隊司令部資料	

九	一四	九	本船	望樓	料適宜盡別隊算外供給セリ
前	前	前		鎮守尉及港務部傳言ニテ、本船明朝八時半出港ノ	
八	一五	八	船名	五ノ出港ス	事ニ改ム
右	右	右	肥前	本船明朝七時出港ノ豫定	
一	一九	七	船名	五ノ加斯土里斯ニ向ケ出港ス	
前	前	前			
三	二三	九	本船	指揮官未艦セヨ	
前	前	前			
五	二三	五	船名	鹿島八明両山ヨリ無線電信所諸材料一部ヲ受取	
前	前	前			
八	二七	八	各艦	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
一	三〇	一	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
三	三三	三	横倉	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
五	三五	五	横倉	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
七	三六	七	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
九	三六	九	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
一	三六	一	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
三	三六	三	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
五	三六	五	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
七	三六	七	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			
九	三六	九	高崎	無線電信所諸材料ヲ受取ルニ	
前	前	前			

夕	夕	夕	二五	夕	夕	夕	夕	二四	夕	夕
七一	六一	一	〇	五	五	四	〇	七一	一	一
聖	三	二	五	〇	〇	〇	七	三	五	〇
御取	本船	夕	御取	本船	香取	山	山	本船	香取	本船
本船	香取	本船	本船	山	山	山	山	各船	本船	各船
明日候快復セ尤順序ニ載炭等、岸頭山凡、艘、	載炭順序指令アリク	本日山凡二三艘九〇屯載炭未済明日候快復後ノ	天候爲載炭困難七八一時載炭ヲ止有	明日候付位置ヲ山凡船前部艘船後部	石炭積載量尤通改公山凡百五十七白雲五十七	本船明朝ノ出港八時ヲ七時ニ改ム	山凡、明日高嶺ノ船後部ニ横付シ同船ヲ常品ヲ搭載ス	五屯香取ニ横付ス	指揮官一時半来艦セヨ	吾レ鹿島ノ右舷側ニ横付ス

九 二六	八 五	九 五	九 五	一 〇 五
白雲	香取	本船	香取	本船
各艦	艦隊	阿蘇	本船	香取
第三頃、阿蘇、第三頃海風橋炭量阿蘇三〇。 七、海風一五〇七橋九十七 五レ出港ス	丙陸戰隊、海風橋、甲陸戰隊、第三五駆逐隊百 聖飲)ニテ本日帰艦ノ旨	本船午後一時錨ヲ揚ケ貴艦ニ横付ス 参謀ヨリ草場六時半(三市発報)リ荷物、草場ニ 移スモトシテ本月中統一載及荷役終得ル、尚貴船ノ 行動豫定兼知シタシ、司令部希望六月十日留地 着引続測量班無線電信所建設員收束内地ノ 発ストトシタシ	参謀ハ、本目心子迄ニ出港シテ午希望付載炭荷役ヲ 今時刻迄ニ是れ終了レ得ル様可然指令アリシニ在スル	

2

<p>黄 一〇一三 香取 本船</p>	<p>一〇一三 香取 本船</p>	<p>一〇一三 香取 本船</p>	<p>一〇一三 香取 本船</p>	<p>前 二〇一三 右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>	<p>右 一〇一三 香取 本船</p>
<p>御希望通十月十日當地に到着得見込</p>	<p>參謀ヨリ何時山風榎へノ載炭終見込ナリ</p>	<p>返、午後一時半迄ニ終リ直揚鋪阿蘇ニ横付ス</p>	<p>高嶺ハ今夜正子出港 来月十日当地着ノ隊定</p>	<p>參謀ヨリ指揮官ハ貴船行動隊定九浦電報宜キヤ</p>	<p>九月七日慶時当地発十月日舞鶴着五日当地着</p>	<p>參謀ハ、五月十六日、改メ其他ハ差支ナシ</p>	<p>參謀へ、海風榎 載炭隊定時間内ニ終リ得見込</p>	<p>知ス搭載量ノ部ヲ阿蘇ニ移シ置ク又他艦ヨリ</p>	<p>西艇逐艦ハ人手ヲ補助スル必要アリト思念為念</p>	<p>右艦 五ノ阿蘇ニ横付ス</p>	<p>香取 山風ハ百千噸、榎ハ九十噸搭載済</p>
<p>三〇一三 香取 本船</p>	<p>參謀ヨリ食後香取鹿島ヨリ兵員五十名補助員</p>										

